

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401178		
法人名	社会福祉法人朝日福祉会		
事業所名	グループホーム花応園		
所在地	長崎県雲仙市国見町神代甲952		
自己評価作成日	平成 29 年 7 月 20 日	評価結果市町村受理日	平成29年10月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成29年9月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

有明海を望む高台にデイ、高専賃、有料老人ホーム、支援ハウス、保育園等の施設が有り、施設間の交流もあり、敬老会、夏祭り、保育園の運動会など、近隣の方や、子供たちとのふれあいがあり、喜んでいらしゃいます。職員と利用者様がゆっくりと会話出来る時間として、食後の時間を大切にしています。職員一同、皆様が明るく、元気に、楽しく、その人らしく暮らせる様に支援させて頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

居宅介護支援や通所介護、保育園等の法人施設が並ぶ敷地内に併設された当概ホームは、隣接する保育所で遊ぶ子供の姿を眺め、法人内施設を散歩する入居者と気軽に声を掛け合い、四季折々の自然に触れることができる環境の中に位置しています。入居者が自分らしく、気持ちよく過ごして頂きたいとの思いから入居者や家族の声に耳を傾け、その方の気持ちになって行動できる職員を目指し日々取り組まれています。今年度は理念を更に実践に近づけるべく、笑顔や言葉遣いに重点目標を置き取り組まれています。年々入居者も重度化し、心身の介護量も多くなってきている現状にありますが、主治医や家族、職員間で話し合いを持ちながらその方が安心して毎日を過ごしていただけるよう食後などのゆっくりした時間を大事にし、それぞれが専門性を持って関わりながらひとり一人のペースに合わせた時間を大事にしているホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の中で自分らしく過ごす」という理念を掲げ頑張っている。今年度の職員の目標として「笑顔で対応し、言葉使いに注意する」と上げている	住み慣れた地域でわがままが自然に言える雰囲気作りを大事にしなが、入居者、家族と共に繋がりを大事に支援が行われています。今年度は入居者の気持ちになって行動できる職員を目指し、笑顔と言葉遣いについて年間目標を掲げ、より笑顔で支援ができるよう職員全体で取り組まれています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方との交流は行事に参加することで声掛けをしていただいたり、している。	法人敷地内に位置するホームとなっていることから、通所や高専賃、保育所等、他の事業所と共に地域との交流を持つ機会が多くなっています。重度化に伴い、入居者個々が地域に足を運ぶ機会が少ない現状にあります、法人の行事を通して地域住民との交流を図るよう努められています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の行事に数名でも参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	園の関連施設の見学、状況報告や自己評価の報告、研修報告、などを行っている。	会議では入居者の生活状況について話し合わせ、ホーム運営の透明性が図られています。今年度は重度化に伴い、外出状況や浴室用リフトの導入、看取りに向けた方針が話し合われました。出された意見は運営に反映し、参加者に法人の理解を深めるために隣接する高専賃で会議が実施されることもありました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認定調査で来訪された時は、園内を見ている。	運営推進会議内において、行政担当者より高齢者の事故や入居者への対応等について意見交換や状況把握がなされています。ホームのみに留まらず、法人の運営方針や現在の状況・雰囲気や伝え、症状によって入居先の選択肢がある理解を図り、協働関係を築く取り組みがなされています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、内部研修を行ったりしているが、スピーチロックについても気になっているが、やはり、「まって」という言葉が出ている	「身体拘束はしない」という考えを持ち、入居者の行動の理由について話し合いを持ちながら対応しています。なかでも「ちょっとした変化に気づける職員になろう」と自分の目で確認することを重視しており、実際に音や表情で入居者の心情を確認しながら、入居者の気持ちに寄り添い、安心して生活できる支援に努められています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても研修を受けているが、言葉かけには注意が必要		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在必要な方がいらっしゃいません		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族に対し説明は、行っている。また、要望等を尋ねている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を利用しているが、ほとんど回答がない。他の関連施設で、聞いた時は連絡して頂くようにしている。	日常的に入居者や家族との関係作りを大事にされ、入居者や家族が希望を自然に言える雰囲気作りを大事にされています。年を重ね、心身の変化に生じる悩みや不安に寄り添い、家族と話しあいを持ちながら入居者が気持ちよく過ごせる環境づくりに配慮されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で情報交換、内部研修、行事予定、ケアプラン、等話し合っている。	法人全体の研修を含め、毎月行われる職員会議ではその月の当番職員がそれぞれ気になることを発表し、職員全体が互いに成長できるような雰囲気づくりに努められています。認知症の症状や嚥下等、日々の業務に関わる内容が多く、介護技術や援助の方法の振り返りが行われました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自分たちの思いどおりに運営させて頂いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や資格試験等受けるように、声掛けしている。広域やGH協会の研修は、全員が何かに参加するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会の研修や役員会で、情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	法人内の入所者がほとんどであるが、他の居宅からの相談もある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、相談は、何時でも受け入れるが、入所前に相談をこられることは、ほとんどない。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内の居宅ケアマネジャーを通して相談に来られるので、直接相談に来られることは、ほとんどない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食後の時間を大切にしているので、会話や、歌等楽しんだり、レクを通し教えたり、教えられたり、している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	居室に関しては、家族と利用者様に任せている。出来るだけ、面会に来ていただけるようにしているが、家族が遠方の方もいらっしゃるのでは、個人差が激しい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人からの要望は、ほとんどない。デイ利用者様の中に、近所の方、親類の方がいらっしゃるのでは、面会して頂いている。	個々の身体機能の重度化に伴い、入居者自身が足を運ぶ事が困難な状況にありますが、家族や親せきの協力を得ながら友人や家族の関係が途切れないよう取り組まれています。毎月のお便りには個々の生活の様子を伝え、家族(親せき)と本人の仲介役を担い関係が途切れないよう支援されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その日の調子で変わるが、支え合えるように、声掛けをしている。場合によっては、あだに職員が入るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今のところ、退所される方は、死亡の方が多く、入院のための方などは、家族に声掛けしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	尋ねても、返事が出来ない方が多くなっているが、出来るだけ、表情や行動で理解、把握出来るように努めている。	食後のゆっくりした時間を利用して、入居者と職員が会話できる時間を大事にされています。意思疎通が困難な入居者も多くなってきている現状がありますが、生活歴や触れ合いの中からその方の人柄を知り、大事にしていた思い出や好きだった事で表情をひきだしながら、入居者や家族の思いや意向を汲みとれるよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に話を聞いている。また、本人が話せる方は本人の意向を聞いて。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックを行い、その日の体調や心身の状態をみて、過ごし方を判断している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の意見をと、家族の意見を聞き、モニタリング表を作り、職員で話し合っている。	生活記録と共にケアプランの実施状況を記録し、計画の進行状況や現状把握ができるよう努められています。計画は3か月毎に評価、見直しをなされ、職員と家族が話し合いをしながら入居者にとって負担なく、本人や家族が望む暮らしや意向が汲まれた内容となっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気付いたことは、書くようにしているが、個人差が激しい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家に帰りたい、墓参りをしたいとおっしゃる方は、家族の協力がある場合は、自由にして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同じ事業所を通じて地域と繋がっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前にかかられていた病院をそのままかかりつけ医としている。また、園独自に愛野記念病院との関係を持ち、急変時の受け入れ対応をして頂いている。	入居前のかかりつけを継続受診されています。食事量や声かけ反応等職員の観察によって体調を把握し、医師への連絡や家族と相談しながらその方の病状に応じた対応がなされています。受診結果は家族と共有が図られ、職員間でも統一した対応ができるよう話し合い支ながら支援に努められています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病院受診も職員全員で行っているため、情報も職員全員で共有している。何かあった時は、看護師に支持をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	出来るだけ早く退院させて頂けるように、相談したり、面会の時は、地域連携室を尋ねるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴い、園が対応し得る最大のケアについて説明を行っている。	口からの栄養を基本とし、栄養補助食を用いたり、その方に合わせた食事形態や摂取方法を話し合いながら、ホームで支援できるぎりぎりまで関わりを持って対応されています。医療からの協力を得られる体勢を整えながら家族へ現状を伝え、本人のつらさを家族と共に理解しながら入居者が家族と一緒に過ごす時間を大事に支援されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはある。普通救命講習を職員全員が受講し、更新するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災訓練は定期的に行っている。自然災害については、話し合いをおこなった	今年発生した集中豪雨や昨年の熊本地震を踏まえ、2カ月ごとに火災や自然災害を想定した避難訓練が実施されています。自主訓練を重ねることで防災への意識付けがなされ、職員が体得できる取り組みがなされています。今年度は毛布を使った訓練を行い、臨機応変に対応できるよう取り組みました。	現在定期的に避難訓練を実施し入居者の安全確保に努められておりますが、重度化によって車椅子等移動困難者も多数入居している現状にあるため、今後もますます取り組みを深める必要があると思われれます。地域や消防団への働きかけを行い、訓練記録によって課題の把握を共有し、振り返りが活かせる記録の整備や今後の取り組みに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけについては、馴れ合いになったり、厳しい声掛けになっている時があり、今年度の目標に言葉かけ注意するように挙げている。	入居者と関わりを持つ際には慣れ合いの中にも敬意を持った接し方を意識し、入居者が気持ちよく過ごせるよう支援されています。年を重ねることに感じる喪失感を、プラス思考に声かけし、残された力を補いながら入居者の誇りや尊厳を大事にするよう取り組まれています。今年度は職員の笑顔や言葉遣いに重点を置き、目標を持って取り組まれています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が決める場面作っているが、重度化に伴い、決めれる方が少なくなっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全部を利用者の希望通りにすることはできませんが、出来る限り対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服は、家族が持ち込まれたものです。髪については、園でカットしたり、家族がカットして下さったり色々です。白髪染めも希望する方は、園で行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全員ではないが、能力に応じて出来る範囲のことを行っている。	季節の変わり目で食欲が落ちる入居者がいる際は食事形態や量を調整しながらできるだけ食事が確保されるよう工夫されています。入居者の嚥下を確認しながら、身体に負担がかからないよう口に入りやすい物を準備し、その時の身体の状態に合わせて取り組まれています。今年度は手作りピザを企画し、好きな食材を自分で選びながら楽しい時間を過ごされました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日常的とはいかないが、飲み物は何種類か用意している。家族が持って来てくださった物は、皆さん一緒に頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は声掛けし、義歯のかたは、夜洗浄剤につけるようにしている。出来ない方は職員が介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用して、尿意のない方も時間を見て誘導することにより、トイレ排泄出来る様に支援している。	できるだけ身体を動かし、運動機能を維持することを目指し、トイレまでをできるだけ手引きで歩行し、誘導されています。週1回リハビリ専門医の往診を受け、専門的な指導を受けながら日常生活の中で動きを取り入れ、歩行や排泄の状態が悪化しないよう支援されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	リハビリ体操と水分補給を行い、便秘対策に取り組んでいるが、ほとんどの方が、薬を処方して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている	現在は入浴を拒む方はいらしゃらないが、一人ひとりに合わせた入浴の支援を心掛けている。	大浴場で入居者が職員の介助を受けながら、毎日自由に入浴できるよう支援されています。視線が気になる入居者には個別に対応し、身体機能の低下で入浴がうまくできない入居者も職員が安全に入浴できるよう体勢を整え、ゆっくりとお湯につかることができている。他の入居者と一緒に入浴し会話を楽しみながらお互いを思いあい和やかに入浴を楽しむ様子が印象的でした。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく、日中の活動を促して生活リズムを整えるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に薬局で頂く、薬の説明書をファイルしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日とはいかないが、出来るだけ、行事などを工夫するようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	重度化に伴い、全員とはいかないが、出来るだけ、季節や地域の行事に応じて戸外に出かけるようにしている。	外出に対して、入居者の身体の負担を考慮し出かけることが困難な状態が続いていますが、家族の協力を得ながら出来るだけ外出し、外の空気や景色を楽しめるよう支援されています。長時間の移動が難しくなっているため、お弁当を作り、法人施設内で外気浴を楽しみながらお弁当開きを楽しむ工夫も窺えました。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所で管理している。夏祭りや自動販売機のジュースを買うくらいで、店で購入したりすることはほとんどない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りをする方はいない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂から有明海が見渡せ、近所も見えるすぐ下に、広いグランドが見える	入居者が多くの時間を過ごす共用空間では、保育所の園庭や敷地内を歩く入居者の姿や、四季折々の風景が楽しめる大きな窓が設置されています。車椅子でも自由に動けるよう家具の配置にも工夫があり、季節の飾り付けを施しながら空調や物音、温かみのある色調の空間づくりとなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファをいろんなところに置いており、それぞれに応じて座って頂ける。居室にも、自由に出入りすることが出来る		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋づくりについては、家族にお願いしている。持ち込みも色々です。	入居者が自宅で使用していた家具や手まわり品の持ち込みがあり、家庭での生活が入居後も継続できるよう家族と一緒に検討されています。入居者によってこだわりの品や思い出の深いものが並び、気持ちをゆったりしながら過ごせるよう配慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせ配置や補助具等を利用している。		